

2017年

携帯サイトへGo!→
携帯で教室便りが見られます



公文式本市場教室 火・木 3~7時 TEL 186-61-4936(上平方)

横割教室 月・水 3~7時 TEL 61-8891(福島方)

指導者：新妻ゆき子 携帯090-2260-0671

Eメール:yvonne-yukiko@mbi.nifty.com

携帯アドレス:yvonne-1682-yukiko@docomo.ne.jp

ゆきこくもん

検索



ホームページ <http://www.yukiko-kumon.com>

教室だより 3月号

弥生

3月の異称、「弥生」は草木がいよいよ生い茂るという意味の「弥生（いやおい）」が転じたといわれており、すべての草や木などが春の温かい陽気で「いよいよ芽吹き生い育つ」勢いをあらわしています。

3月は現在の学年が修了する月ですが、ご存知のように公文式は同学年の生徒さんが一斉に進級するわけではありません。いわゆる卒業というものはありません。

生徒のみなさんは、現在の学力に応じて、それぞれの目標に向かって教材学習に取り組んでくれています。生徒のみなさんには、ぜひ最終教材を目指してほしいと願っています。

公文式の最終教材修了生は全国にたくさんおられますが、彼らは異口同音に、公文式の学習を通して数学力や読解力といった学力とともに、「自学自習力」や「失敗を恐れずチャレンジする力」など、社会に出てから役に立つ力が身についたと語ってくれます。目標達成のために必要なことは、決してあきらめないこと、チャレンジし続けることである、と彼らは公文の学習を通してこのことを実体験しています。

言葉の上だけでなく、「やればできる」という確信、ゆるぎない自信を持っています。これは充実した人生を送る上で、かけがえのない財産となります。

生徒のみなさんが自学自習で最終教材に向かって進んでいく、そのお手伝いを全力でさせていただきたいと、スタッフ一同心から願っております。

公文式の創始者・公文 公（くもん とおる）先生の言葉より

“どんな子どもにも、必ずできるところがある”

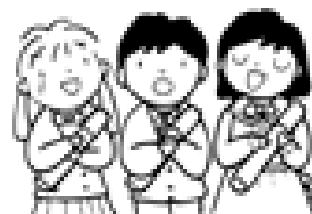
どんな子どもにも「できる問題」というのは必ずあります。たとえ知的障害のあるお子さまであっても、できるところは必ずあります。それを発見できないのは、学年という枠にとらわれて、その子ができるレベルまで戻ること躊躇する親の気持ちがあるからかもしれません。また、できるということも、時間をかけてやっとできたというレベルではなく、時間がかかるようならまだ不十分だと考えて、思い切った後戻りをする勇気も必要です。『できない子』というレッテルを貼られた子どもは、長いこと「できる!」という感覚を忘れています。そうした子どもにとって「できる」「わかる」という感覚にもう一度めぐり会うことは非常に大切なことです。自分にとってできる問題、わかることが世の中にあるという発見は、大きな励ましとなるからです。どんな子どもにも、段階の違いこそあれできる問題が必ずあることに気づかせてあげることがまわりの大人に課せられた使命ともいえます。

2017年 3月の学習日

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20 春分の日	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

本市場教室日 □

横割教室日 △



様

ゆき子の一言コラム

～お子さんの成績アップのために～
公文の繰り返し学習の効果が認識されました。
(2017年2月16日朝日新聞朝刊掲載)

繰り返し学習やっぱり有効

何かを学んだ直後に別の学習をすると、前に学んだことを忘れがちになる。だが、忘れないように繰り返し学習すると、別の学習に妨げられずに学習効果を維持できることがわかった。米ブラウン大の渡辺武郎教授らの研究グループが、専門誌ネイチャーニューロサイエンス電子版に発表した。研究グループは、実験協力者に画像を見て模様を識別してもらった。繰り返すと正答率が上がった。だが、学習効果が得られた後に別の新しい画像の敢別学習をすると、新しい課題の学習効果は上がるが、前の課題の学習効果は維持できなかった。一方、獲得した知識や技術を、さらに繰り返して学ぶ「過剰学習」をすると学習効果は維持できたものの、新しい課題の学習効果が上がらなかった。この時の脳の働きを磁気共鳴画像装置（MRI）で調べた。学習で使われる脳の領域は興奮して、新しいことを覚えやすい状態になるが、過剰学習直後は逆に抑制され、新しいことが覚えにくい状態になるとわかった。これまで「過剰学習」にどのような意味があるのかよくわかっていなかった。渡辺さんは「楽器の演奏や武道などで、身についたと思ってもさらに練習を続けた方がいいと言われる理由が科学的にわかった。学習直後の記憶は不安定で壊れやすいが、繰り返し学習することで素早く固定される」と話している。

音読と暗唱

よく、『子どものころ覚えたことは忘れない』と言われますが、本当にその通りで、小学生、中学生くらいに丸暗記した内容は、大人になってもかなり覚えています。それが、高校生、大学生くらいになってからの暗記したことは、不思議とけっこう忘れていくものです。大人になってからの記憶は、さらに忘れやすくなるようです。また、子どものころは、意味が分からなくても音で覚えることができます。実は、学齢が上がるにつれ、意味の分からないものは覚えられなくなるので、名文や古典の暗記には、頭が柔軟な小、中学生のときに覚えてしまうのがいいのです。学校はもちろん家庭でも、できるだけ名文と一緒に音読し、覚えてしまうのがよいと思います。こうして覚えたことは、たとえそのとき、意味が分からなくても、いずれその内容、鑑賞がじわじわと理解できるようになるからです。つまり、難しい文章でも、親や大人がだいたいの意味を教えればよいことですし、場合によっては意味は教えなくても構いません。ですから、ご両親が座右の銘としている言葉、古典文学、その他これは覚えさせておこうという名文は、ぜひ子どもと一緒に声を出して毎日読むことをお勧めします。最近、『声に出して読みたい日本語』などの良書も出版されています。よくお風呂の中で数を数えますが、このときに暗唱するのも一つの方法でしょう。こうした音読、暗唱は脳を刺激し、活発にします。暗記は集中力を要しますから、集中力を養う訓練にもなります。さらに音読は、日本語の言葉のリズムを知り、文章感覚を磨くという効果もあります。黙読ではなく、音読が優れているのは、自分で声を出した文章を、再度、自分の耳で聞くことになるからです。実際一回音読することで、二度繰り返していることになるのです。当然記憶を助けます。また、声に出して読むことで、側にいる大人が、その出来具合を容易に確認することができます。つまり、途中でつかえてしまったり、止まってしまうところは、覚えていないところですから、すらすら読めなければ、まだ練習不足ということなのです。すべての学校で、音読、暗唱の宿題が出されわけではありません。ですから是非、ご家庭でお試ください。ゲーム感覚で親子で競争するのもいい方法です。

お休みのときは、電話でも携帯メールでも結構ですので連絡をお願いします。3月分の会費引き落としは2月28日(火)です。よろしくお願いたします。(注)休会・退会の場合は、引き落としの関係から15日までに申し出下さい。お迎え電話を教室からする子には必ず電話代10円を持たせてください。